

# 2023YOSAKOIソーラン全道参加者フォーラムin恵庭 開催報告書

## 【開催結果】

日程：2023年9月23日（土）

13:00～13:15 開会式

13:15～14:15 全体会

14:35～17:05 分科会（意見交換会・ワークショップ）

17:30～20:00 大交流会

20:00～20:15 閉会式

会場：恵庭市民会館 ほか

主催：一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会

主管：一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会道央支部

参加者：79団体 311名（スタッフ含む）

## 【開催テーマ】「地域と共に！祭りがつなぐ、ヒトとマチ」

改めて、地域と共に歩む祭りとしての原点を再確認した第32回YOSAKOIソーラン祭り。多くの人と地域から愛される祭りとチーム作りを軸に、有意義な意見交換と交流を目指します。「人と地域に感動と元気を届ける」祭りへ！

道央支部により恵庭での開催となった今年のフォーラム。コロナ以前と同じように1泊2日での開催をする案もありましたが、より多くの人に参加しやすい会にしようと、日帰りでの開催となりました。若い世代のリーダーたちも数多く参加し、幅広い世代が祭りの「これから」について語り合う貴重な機会となったほか、昨年ではできなかった大交流会も復活し、祭りの大きな魅力である「交流」も楽しみました。



## 開会式

- 主催者挨拶
  - ・一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会  
会長 星野尚夫
- 来賓御挨拶
  - ・ 恵庭市長 原田裕 様
- 主管挨拶
  - ・一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会 道央支部  
支部長 相馬伸太郎



## 全体会 「地域と共に！祭りがつなぐ、ヒトとマチ」

地域と共に歩むことを再定義し、審査の評価にも盛り込んだ第32回。それを受けて、チームとしてどのように活動を再評価したのかどんな活動を心がけてきたのか。地域と共に歩むことの価値、魅力をファイナルチームにディスカッションしていただきました。長年地域で活躍してきた各チームの活動や想いをお話いただき、参加者それぞれが「自分たちならどうするか」を考える機会となりました。（詳細はレポート後半に記載）



《パネリスト》

REDA舞神楽 吉村朗さん / 平岸天神 村井優美子さん  
新琴似天舞龍神 梶浦宣明さん / 恵庭紅鴉 相馬ゆきさん 《コメンテーター》 高知大学 川竹大輔さん

## 分科会（意見交換会・ワークショップ）

様々な観点においてチームの在り方について議論する「意見交換会」、チームですぐに実践できる手法を学ぶ「ワークショップ」と、計7つの分科会を開催しました。（各分科会の詳細はレポート後半に記載）



- 【意見交換会①】教えてください！あなたのマチと、その魅力
- 【意見交換会②】継続は力なり！大切なのはヒトとお金
- 【意見交換会③】育てよう！祭りとチームの未来のチカラ
- 【ワークショップ①】体が資本！練習の基礎・体力づくりはチームのチカラ！
- 【ワークショップ②】手作りチームでもできる！効果的な演舞・演出のポイント
- 【ワークショップ③】写真もチームの大事な作品！チームに活かす写真のアレコレ
- 【ワークショップ④】想いは届く！特殊なソフトを使わずにPR・広報用のデザイン作成を実践

## 大交流会

フォーラムの醍醐味、交流！昨年は実施できなかった、待ちに待った交流会です。全道から集まった、祭りのこれらを考えるリーダーたちが存分に交流を楽しみました。

乾杯のご挨拶・鏡開きには恵庭市長 原田様にもご参加いただいたほか、中盤には道内各支部のPRタイムも設けるなど、盛り上がりました。



## 閉会式

- 総括 ～「世代交代」ではなく「世代継承」を
  - ・ 組織委員会 事務局長 伊藤耕作 / 道央支部長 相馬伸太郎
- 次年度開催地発表
  - ・ 胆振千歳支部 副支部長 山本晃弘
- 挨拶
  - ・ 道央支部 副支部長 五十嵐悠哉



## 【全体会】 地域と共に！ 祭りがつなぐ、ヒトとマチ

地域と共に歩むことを再定義し、審査の評価にも盛り込んだ第32回YOSAKOIソーラン祭り。それを受けて、チームとしてどのような活動を再評価したのか、どんな活動を心掛けてきたのか。地域と共に歩むことの価値、魅力をファイナル進出チームにディスカッションしていただきました。

- 《パネリスト》 REDA舞神楽 総代表 吉村 朗さん / 平岸天神 代表 村井 優美子さん  
 新琴似天舞龍神 総代 梶浦 宣明さん / 恵庭紅鴉 代表 相馬 ゆきさん  
 《コメンテーター》 高知大学 川竹大輔さん  
 《進行》 YOSAKOIソーラン祭り組織委員会 横山 尚子

## ◆チームで取り組んでいる地域活動

## ○REDA舞神楽 吉村さん

- ・もともとボランティア団体で活動していたが、ゴミ拾いや青少年教育をやろうとしても人が集まらない  
→楽しいことと結び付けて人を集めようというきっかけでチームを作った
- ・小中学校での鳴子踊り講習会  
→千葉の人たちにYOSAKOIソーランを知ってもらうため、最初の5～6年で何度もやった

## ○平岸天神 村井さん

- ・「平岸郷土芸能祭」は地元商店街と共に地域の公園で開催している  
→6月の平岸会場も同じく商店街との連携

## ○新琴似天舞龍神 梶浦さん

- ・開拓した先人たちが作ってきた新琴似。自分たちが30代の頃は地域活動になかなか入れなかった  
→若い世代も何かやりたいと思い、新琴似地域でのチームを立ち上げた。
- ・地域への恩返しとして毎年恒例の新琴似神社での年越し餅つきも、最初は境内では許されなかったが、何年も続けていくうちに神社の中でできるように距離が縮まった。

## ○恵庭紅鴉 相馬さん

- ・踊り子ゼロからJCが作ったチームに、自分は小学生のときに参加した
- ・世代交代した代表だが、最近では地元の神社の御神輿の宮出しに呼んでもらえたり、少しずつ地域に認められてきていると感じる。



## ◆チームにとって「地域」とは？

## ○REDA舞神楽 吉村さん 「そもそも、よさこいの演舞場所は地域」

- ・行政や市民に受け入れられないと「街は舞台だ」という祭りはやできない。
- ・行政や市民と良い関係を築き、演舞で恩返しをしていく。
- ・大賞を受賞したことで、市役所の各課との繋がりが強くなった。

## ○平岸天神 村井さん 「信」

- ・チームで大切にしているのが「信頼関係」。商店街での活動を続ける中で地域とも信頼を築いてきた。
- ・地域の方のサポートがあって成り立っている
- ・まさに世代交代の時期だが、様々な世代がいるので、信頼関係はとても重要

## ○新琴似天舞龍神 梶浦さん 「共に地域を元気にする同士でなくてはならない存在」

- ・一緒に地域を盛り上げていく存在。様々な世代が一つになって地域を盛り上げることが大切。
- ・新琴似会場も、地域の2つの連合町内会が初めて合同で行ったイベント。もともと互いに交流がなかったが、YOSAKOIソーランをきっかけに地域を一つにしたい、という想いがあった。

## ○恵庭紅鴉 相馬さん 「鏡」

- ・何かするときに必ず周りや前にあるのが「地域」。振り付けなどを作るときも、地域の人に楽しんでもらうにはどうしたらいいかを考える→がんばった分だけ返ってくる
- ・自分たちが地域の中でエネルギーを持って活動することで、他の団体も一緒に盛り上がってきた。
- ・地域や市民と向き合うことで、審査の結果だけに捉われず、チームとして芯を持つことができる。

## ◆コメンテーター 川竹さんより

- ・街を舞台に踊れること、このこと自体が稀有であり感謝すべきこと。「踊りたい」というきっかけで始めたメンバーも多いと思うが、街で踊ることに魅力を感じているのであれば、地域の理解が不可欠ということを普段の活動の中で浸透させていくことが大切。
- ・自分たちがどうやって地域に関わっていいかわからないという方にとっても、今日は多くの示唆を富む話が聴けたのではないかな。飛び込んでいくことも重要。その中で拓かれていく道があり、これから「見える化」されていくことで更なる広がりを生みだしていくことが望まれる。



## 【意見交換会①】 教えてください！あなたのマチと、その魅力

### 【内容】

「YOSAKOIソーランチームができる地域貢献とはどのようなものなのか」「チームにとっての地域とは」「自分たちの活動を取り巻く環境がどのように成り立っているのか」これらを理解し、各チームにとって価値と魅力のある利他の活動アイデアを考えます。

### 【「地域と共に歩む祭りへ～川竹大輔氏(高知大学)】

～高知大学で「よさこい概論」講義を行う川竹准教授。第1回YOSAKOIソーラン祭りの実行委員会メンバーでもあった川竹氏より、改めて祭りの歴史(どのようにして祭りが全道・全国に広まったか)、地域で果たす役割についてお話いただきました。

- 地域の活性化や町おこしへの若者・女性の参画
  - 若者の地域への定着(例:高知大学卒業生のうち、よさこいサークルに所属していた学生はそうでない学生に比べ高知に残る割合が3割多い)
  - 災害時の助け合いや地域を超えた交流の創出
  - よさこい・YOSAKOIソーランは国内最大の“交流する祭り”
- ⇒ これまで果たしてきた役割、その価値をみんなで守り、次世代につないでいくことが、地域貢献点が導入された背景にあるのではないかと。



以下は、意見交換で出た内容の一部をご紹介します。 ※6グループで実施

### 【アイスブレイク】

～グループごとに自己紹介・チーム紹介。チームで行っている地域活動の紹介(チームが実際に行っている地域活動の一例)

地元の祭りの運営手伝い / 福祉施設での演舞 / 幼稚園や小学校での演舞指導・交流  
地元の子供たちを招待して交流イベント開催 / 地域の清掃活動 など



～意見交換セッションでは、2つの架空のチームプロフィールを読み解き、そのチームの活動を成り立たせているのは誰なのか、また、チームにとって大切な環境と相手(ステークホルダー)に何ができるのかを議論しました。  
架空のチームを通して忌憚のない意見交換をすることで、改めて「自分のチームなら何ができるのか？」を見つめる機会となりました。

### 【意見交換① チームの活動を支え、成り立たせているのは誰なのか？～仮想チーム】

- ◆仮想チームA(当別町で活動する一般チーム)  
町民、応援してくれる後援会メンバーなど、地元の人たち / 練習会場として使用している施設  
メンバーの家族、勤務先の同僚など / 参加する祭りをつくっている人たち  
他のYOSAKOIソーランチームや支部 / 協賛してくれる人 など
- ◆仮想チームB(浜益村で活動する学生チーム)  
大学 学生課や学生 / 大学がある地域の方々 / メンバーの家族(特に親)や友人  
参加する祭りをつくっている人たち / 祭りのスポンサー など

### 【意見交換② チームにとっての大切な相手に、何ができるのか？～仮想チーム】

- ◆仮想チームA(当別町で活動する一般チーム)  
踊り以外のイベント(街の行事)に参加する / 幼稚園や学校にYOSAKOIを教えに行く  
練習会場の清掃活動 / チームを長く続けること など
- ◆仮想チームB(浜益村で活動する学生チーム)  
街のボランティア活動 / 福祉施設の慰問や学校訪問 / 地元以外での演舞で、地元をPR  
祭りやイベントの手伝い / OBOGチームをつくり地元に残る人を増やす など

### 【意見交換③ 自分のチームなら、誰に、どんなことができるのか？】 ※時間の都合上省略

たくさんのご意見ありがとうございました。今後、フォーラム以外の場所でも議論や情報交換をしていければと思います。

## 【意見交換会②】 継続は力なり！大切なのはヒトとお金！

## 【内容】

長年の各チームの課題でもある「人集めと資金集め」に焦点を当てました。各チームの成功事例や取り組みの情報交換によって、より良いパフォーマンスを継続的・安定的にできるチームになるきっかけを得ることを目的に、パネリストによる事例紹介とグループディスカッションを行いました。

## 【パネリスト6チームによる事例紹介】

## 《人集め》

## ○海響

出場初年度は25名、2回目の今年は44名。人集めは不安が大きいですが、まず本祭にでるという決定をして、月ごとの目標人数を決めてメンバーに落とし込んだ。メンバーに伝えるときには人数を集めることに軸を置くのではなく、どんなチームにしたいかの理由づけが大切。目標数を伝えたこともよかった。

## ○北海道大学“縁”

メンバーを入れるのは新入生歓迎の時期のみ。参加するメンバーが何を求めて入ってきているのかを考えたとき、9割が踊り未経験で入ってくることもあり、①キャッチーな企画をつくる(ex.学内で逃走中)、②告知のためのピラ配りやSNS、③企画を通してメンバーと仲良くなる、という3つを意識した。メンバーの定着のためにも、何を求めてチームに入っているのかを分析し、活動を考えている。

## ○北昇

3つを意識して活動。一つ目は、目標設定。明確に150名を目標に掲げる。二つ目は、人の魅力が伝わるような行動をとる。SNSでは親近感のわくような写真をつかたり、チーム内のコミュニケーションを増やすこと。三つ目は、様々な勤務形態の人でも練習できるように、時間を遅くしたり、スタッフだけでなく踊り子が踊り子を指導するような環境をつくった。

## 《資金集め》

## ○酪農学園大学

スポンサーはおらず、衣装や振付などはすべて自分たちでやっている。メンバーから集める部費のほか、クラウドファンディングを実施し、資金を募った。返礼品としてチームグッズを作成したりした。クラウドファンディングは説明文などを書くことで多くの人にチームを知ってもらえるが、返礼品を用意したりサイトを作るのに手間がかかる。

## ○石狩流星海

祭りに出店することで資金を作った。射的や輪投げなど、縁日系の出店をし、全体収入の約20%を得た。チーム全体で準備をするのでメンバーが仲良くなるメリットもある。ただ、当日の天候によってはお客さんが来ないというデメリットも。

## ○新琴似天舞龍神

会費とイベント出演料と協賛金がチームの資金。協賛金は地元の商店などを飛び込みで訪問するなどしている。協賛活動は踊り以外で地域の方とかかわる貴重な機械なので、メンバーには入会時に協賛活動に3回は参加するという条件を設けている。協賛先にはパンフレットやティッシュを配る。ティッシュが置いてある店は協賛している、とすぐに気づける。お礼状や年賀状などの対応も重要。

以下は、グループでの意見交換で出た内容の一部をご紹介します。

## 【人集めについて】

## ◆加入の工夫

Instagram等のSNS活用 / メンバー紹介による割引制度 / YOSAKOI以外のレクレーションの実施  
チームの日常風景の発信(SNS) / 演舞を見せるイベント時にPR / メンバーのバイト先にポスターを貼る  
チームの魅力を伝える映像をつくる など

## ◆継続の工夫

メンバーでキャンプを実施して交流 / 活動の目標を定める / 作品を2年ごとにし費用や練習負担の軽減  
イベントに多く参加、練習も増え合う機会が増える / 練習時の子連れOK など

## 【資金集めについて】

## ◆集める工夫

チームグッズを作って販売 / 地元企業からの協賛 / イベントへの飲食等の出店 / チームOBIによる後援会  
歴代楽曲の販売(CD、サブスク) など

## ◆節約の工夫

過去の衣装をリメイク / ベースの衣装は毎年使用して法被や小道具のみ変える / チームで振付する など

たくさんのご意見ありがとうございました。今後、フォーラム以外の場所でも議論や情報交換をしていければと思います。

## 【意見交換会③】育てよう！祭りとチームの未来のチカラ

### 【内容】

未来の担い手となるジュニア世代。祭りもチームもこの先ずっと続いていくように、「チームにジュニアを加えよう」「ジュニアチームを立ち上げよう」という気持ちが湧くことを願って、ジュニア世代の可能性について、パネルディスカッションとグループディスカッションを行いました。

### 【パネルディスカッション】

～4チームのパネリストに、5つの質問について回答いただきました。

#### 《練習方法》

- 基本は大人と分けて練習。小学生～中学生まで、習得スピードが違うので年代で分けるなどする。(新琴似子龍隊)
- 本祭前、子供だけの練習は週1回、全体練習の合間の90分のみ。子供の方が覚えるのが早い集中力もある。その時間のみ、集中する感覚になっている。(炎-HOMURA-)
- 週1回が基本で、中高生に振り落としをし、中高生が小学生・幼稚園児へ教える。本祭前は練習が増えるが、子ども同士でお互いに見ている。(AJG KIDS)
- 本隊の練習ができてからジュニアの練習をするようにしている。子供たちの中で練習したり、ジュニアから本隊になったメンバーが教えるなどしている。憧れの人がいるとよい影響に。(恵庭紅鴉ジュニア)

#### 《YOSAKOIチームだからこそ教えたこと》

- あいさつや返事をしっかりすること。上の子が下の子のお世話をすること。子供たちが主体となって企画するイベント(Jr天舞祭り)も開催。(新琴似子龍隊)
- 子供たちにとっては学校生活がコミュニティのすべてになりがちなので、もう一つのコミュニティになること。チーム内で派閥をつくらないこと。結成当初から「派閥ができればジュニア解散」と決めている。(炎-HOMURA-)
- 縦のつながりを大切にしている。また、声と笑顔をモットーにしているので、レッスン室に入る声が小さかったら何度もやり直すなど、だらだらした空気を引き締めること。ほめることも意識している。(AJG KIDS)
- いろいろな人と関わること、諦めずにみんなで続けること。スポーツと違いスタメンもなく、結果が出なくても達成感を得られるのがYOSAKOI。大人と子供が一緒にになにかをできることも大切にしたい。(恵庭紅鴉ジュニア)

#### 《会費》

- 年会費・衣装代含め大人と同様。保護者の会費等は無し(新琴似子龍隊)
- 衣装代のほか、月々の会費。家族3人目以降は安くなるなど参加しやすくしている。(炎-HOMURA-)
- 年会費のほか、衣装代。衣装は生地を購入して親が作成することで費用を抑えている。兄弟や友達の紹介割引も(AJG KIDS)
- (恵庭紅鴉ジュニア)

#### 《保護者のサポート》

- 父母会をつくり、ジュニアの保護者は必ず加入。イベントのサポートなど。父母会の会長・副会長は毎年決定し、チーム全体の会議にも参加する(新琴似子龍隊)
- 父母会はない。手伝いを申し出てくれる親には手伝ってもらっている。(炎-HOMURA-)
- 事務局を置き、一年を通しての役割分担と、本祭の役割分担をしている。練習会場の用意や、練習に必要なものの手入れなど。(AJG KIDS)
- 子供がジュニアを卒業したあとも大人が後援会としてチームに残れるような制度をつくっている。会長・副会頭を置いて規約をつくるなど、独立した会に。現在45人いて、父母同士のコミュニケーションも。(恵庭紅鴉ジュニア)

#### 《ジュニアをやってきた理由・喜び》

- 子供が一生懸命やっている姿は大人のパワーにもなって、チーム全体が盛り上がる。(新琴似子龍隊)
- 間近でみていて成長を感じられる。大人の気持ちも前向きにしてくれる(炎-HOMURA-)
- 保護者としては、YOSAKOIを通して子供と共有する時間が多くなった。(AJG KIDS)
- コロナ禍でチームが大変なときもジュニアたちに支えられた。今チームを動かしているのはかつてジュニアだったメンバー。ジュニアに時間をかけるほど、未来につながっていくという希望がある。(恵庭紅鴉ジュニア)

パネルディスカッションの後、グループごとにジュニアの巻き込み方やチームの運営方法、ジュニアへの接し方などについて、様々な意見交換を行いました。

**たくさんのご意見ありがとうございました。今後、フォーラム以外の場所でも議論や情報交換をしていければと思います。**

## 【ワークショップ①】体が資本！練習の基礎・体力づくりはチームのチカラ！

【内容】準備体操や体力づくり・鳴子の基礎を学び共有することで、怪我の予防・筋力アップ・パフォーマンスの向上など、チーム活動に活かすノウハウを学びました。

### 《①心と体のストレッチ！》

担当：北海道大学「縁」米田 響さん・藤野 美玖さん  
北海道大学「縁」にて行っている準備体操のレクチャーをしていただきました。  
体をほぐすだけではなく、チームメンバーの気持ちもほぐして温める、  
縁流の準備体操です！

### 《②ステップ&HITトレーニング！》

担当：室蘭百花繚蘭 加藤 竜樹さん  
ステップを重視したトレーニングやヒートトレーニング、20秒筋トレなど筋力アップにつながるトレーニング方法を学びました。室蘭百花繚蘭のパフォーマンスを支えるトレーニングを体験！

### 《③YOSAKOIソーランの基礎！鳴子レッスン！》

担当：天嵩～Amata～ 矢幅 百萌さん・寺尾 美紅さん  
鳴子の基礎・効果的な鳴らし方をレクチャーしていただきました。  
天嵩で行っているルーティーンを学び、パフォーマンスの向上を目指します！

### 《④ストレッチ、トレーニングの後は踊りましょう！石狩シャケサンバ！》

担当：道央支部広報部会長（石狩朱華弁天）谷 陵太さん  
最後は参加者の皆さんで石狩市の総踊り曲である【石狩シャケサンバ】を楽しく踊ります。  
この後行われた「大交流会」でも、ワークショップ参加者で踊りを披露しました。



## 【ワークショップ②】手作りチームでもできる！効果的な演舞・演出のポイント

【内容】プロの振付師から演舞・演出のポイントを学び、自チームの魅力的な作品づくりに活かすことを目指します。

### 《過去作品の紹介 映像から演舞ポイント解説》

- 「パスキー&北海道医療大学」2001『火の鳥』（第10回YOSAKOIソーラン大賞）
  - ・この時は曲が先あって、そこからテーマを考えた。とにかく曲を聞き込み（100回以上は聞いた）、イメージを膨らませる。一人で作ることの良さは、良くも悪くも一人で決定できること。裏を返せば独断になり偏りすぎてしまうことも。みんなで作る時の注意点は、みんなの意見をまとめて聞きすぎると、意外とつまらないものができあがったりする。やりたいことを詰め込みすぎると、作品全体を整えるために“ここは削ろう”という調整ができる高いリーダーシップを持った人が必要。
- 「JAL 極楽とんぼ」2008『Shangri-La』（第17回YOSAKOIソーラン祭り ファイナル8位）
  - ・ステージとパレードそれぞれの魅せ方について。パレードは流れていくものなので、全体よりも個人がよく見えるようにつくる。
- 「oh！愛で隊」
  - ・少人数で隊列が広がりすぎるとステージの大きさが目立ってしまうので、広がりすぎないように。
- アイデアや発想によって普通の人でも大賞が取れる。のめりこみすぎずに多角的に考えていくこと、そして楽しくやるのが大切！



★グループディスカッションや質疑応答も実施し、チームの悩みについても意見交換しました。

### 《講師：稲場幸栄氏プロフィール》

96年・97年と「JAL 極楽とんぼ」「Docomo ザ・ウエスタン」「Docomo オレオレ・ヤーヤー」「舞Docomo」チームで、三浦亨先生のアシスタント及び踊り子として参加。同じく、97年からパスキー&北海道医療大学チーム（THE☆北海道医療大学）チームの制作・振付け・指導を担当する。「日専連レゲレゲレンジャー」（99・00）「JAL 極楽とんぼ」（03）ほか多数振付。2012年より自チーム「oh！愛で隊」を作り、振付け・指導しながら、YOSAKOIソーラン祭りを楽しんでいる。



## 【ワークショップ③】写真もチームの大事な作品！チームに活かす写真のアレコレ

【内容】「写真もチームの大事な作品！チームに活かす写真のあれこれ」をテーマに、写真の撮影・管理をチーム内で内製するためのノウハウを学びました。

【講師】 中原一雄氏(写真情報サイト studio9主催)

### ◆YOSAKOIチームの撮影とは？～チーム関係者が撮る意味～

「チームのことをよく知っているからこそ撮れる写真がある」

今の時代綺麗な写真は誰でも取れるからこそ「チームの想い、ポリシー」「会場毎に異なる構成、裏テーマ」

「オフの時の表情」「年間を通した活動の一貫性」 これらを反映することでより良い写真が撮れるようになる。

### 《普通の撮影とYOSAKOIソーランの撮影の違うところ

・4分30秒の限られた時間 ・撮影ポジションの確保 ・コントロールできないスケジュール

・相手が常に動いている ・時間、天気を選べない

### ◆撮影にも目的と計画が大切！撮影計画の立て方～本祭1日の流れの中で撮影計画を立ててみよう～

なんとなく撮るのではなく、目的を決め、計画を立てる

(ポイント) 5W1Hを明確に ・事前にシミュレーションしておくとは本番で焦らずに済む

・撮影後の反省にも役立つ

→ワークシートを使ってグループごとに撮影計画を制作



### ◆お祭り撮影に必要な機材の話

### ◆撮った写真の管理、運用・計画の仕方

・個人管理ではなく、チームで適切に管理し、いつでも活用できるようにしておくこと

・一般のチームメンバーもアクセスできる環境を整える→クラウド or NAS の活用がおすすめ

### ◆大事な権利とルールについて

・後々トラブルにならないように権利を学ぶことが大切 ・「著作権」「著作者人格権」「肖像権」の3つが大事

## 【ワークショップ④】想いは届く！特殊なソフトを使わずにPR・広報用のデザイン作成を実践

【内容】情報発信やコミュニケーションの本質を理解し、誰でもすぐに実践可能なデザインツールやノウハウを学んで、今後のチーム広報に役立てることを目指します。

【講師】 三浦真吾氏(FMラジオ局「e niwa」取締役 編成プロデューサー)

### 《①座学&グループワーク》

～グループワークでは各チームのSNS活用事例を紹介(どんな投稿をしているのか、どのように運用しているのか)。

#### ○情報とは？(なんで×3回で本質が見えてくる)

なぜそれをやっているのかを三回掘り下げて自問自答してみると、情報の本質に近づく。情報の優先順位を

つけて文章を作る。目的の本質を最初に明確に伝えるとより有意義で効果的な情報発信ができる。

#### ○校長先生の話はなぜ残らない？(ラジオのあなたメディアにヒントがある)

大勢に向けて話すから、届きにくい、自分事に感じにくい

→不特定多数に届けるのではなく、個人的に話をする事で、目につきやすい。

#### ○デノコを知ろう！(SNSユーザーは裏側を推察しているのだ)

言葉の表面をそのままとる(デノテーション)暗喩で隠れていること(コノテーション)

#### ○北風と太陽から学ぼう！(新メンバー獲得のヒント)

### 《②実践&グループワーク》

○個々(もしくは各チーム)の広報における困りごとや悩みを共有

○NEWSをつかってメディアを活用しよう(プレスリリース)

○アイデア出しや資料づくりはAIに任せよう(chat GPTの応用)

○小学生も使ってるデザインツールを活用しよう(CANVAの基礎)

### 《③CANVAの活用事例紹介》

～デザインツール「CANVA」をチーム広報に活用している「SAPPOROこいこい」 藤掛良嗣さんに

具体的な使用方法、チームで心がけていることなどについて紹介いただきました。

